

# 小さなわがまち自慢

第二回

伊予柑発祥の郷・潮見に暮らして60年 塩出 栄(RNB)

月山に黄金のみかん畑  
祭り太鼓がにぎやかに…

…ホンニよじとん

わが町、潮見

これは公民館が作った、松山市潮見地区の『ふるさと音頭』の一節です。

松山市の中心にそびえる松山城から北におよそ4キロ、潮見地区は万葉歌人、額田王が詠んだ歌…

熟田津に舟乗りせむと月待てば

潮もかなひぬ

今は漕ぎ出てな

ご当地論争のなか、「潮見」の名の通り「ここが熟田津」と地元では譲らない。

詩に詠まれたこの地の里山は、いま伊予柑畑でおおわれています。

伊予柑のルーツは山口県萩市。明治22年、松山にもたらされたと伝えられています。

その後、栽培面積も増え、昭和5年「伊予柑」という名で登録されました。



## 宮内伊予柑の誕生

昭和30年、潮見で柑橘栽培を手広く営んでいた宮内義正さんが自園で、着色が早く大果で果皮が滑らか、紅の濃い見事な果実が実る枝を発見しました。その後、昭和41年、発見

者の名を取った「宮内伊予柑」が農林省登録品種として認可されました。宮内さんは、権利や代償を一切求めず、接ぎ木用の穂木を栽培希望者に提供したため、当時、栽培面積は急激に拡大しました。







写真の案山子人形は、街づくり協議会の事業として7、8年前に制作が始まり、各団体、中学校の体験学習等で制作講習会を開くほか、成人式、卒業式など地区の催事に彩りを添えている。



令和5年度の伊予柑生産量は愛媛県内で1万5千トンと全国の約9割を占めています。愛媛特産の「紅マドンナ」や「デコボン」(せとか)など、甘味の強い新しい品種に切り替わりつつあり、また、ご多聞にもれず後継者不足で伊予柑の生産量も少しずつ減っているのが現状のようです。

いい予感!

令和6年1月13日、東京・湯島天神は、合格祈願の受験生やその家族で大賑わいでした。

J-A全農えひめが毎年受験シーズの前に「がんばれ受験生! 愛媛のいよかん! いい予感」という合格の縁起物として、お祝いを受けた伊予柑を、湯島天神を訪れた受験生、家族にプレゼントするという毎年恒例のイベントが開催されたのです。39回目になる今年は千五百人に配られ、大好評でした。



湯島天神での伊予柑プレゼント

春はどこからともなく、みかんの花の香りが漂い、初夏には地区の中ほどを流れる古藤川に螢が舞う、秋には黄金色に染まる甲山。県都・松山の市内とはいえ、自然豊かなこの町。私は大声をあげて自慢したい。

◆愛媛県松山市瀬見地区◆

ホームページ「いい、暮らし。まつやま」内に瀬見地区を紹介しているページがあります。

<https://matsuyama-kurashi.com/about/area/637.html>

